中学校１年　英語　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別			領域別			計
	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと	
＋10％ より高い	1	2	1	0	2	2	4
±10％ の範囲内	1	9	3	7	4	2	１３
－10％ より低い	2	0	1	0	0	3	3
計	4	１１	5	7	6	7	２０

（２）考察

①　全体について

ア　「理解の能力」「知識・理解」においてはおおむね良好である。

イ　「表現の能力」は、良好であるとは言えない。特に、「正確な筆記」に課題が見られる。

②　成果

ア　各校で、「聞くこと」「読むこと」の日常の指導状況が良好であることがうかがえる。

イ　諸調査の結果を踏まえた授業改善の取り組み等により、これまで課題とされてきた「質問への適切な応答」や「まとまりのある英文を書くこと」において改善が見られる。

③　課題

ア　「書くこと」において、文法に従って正確に筆記する力が身に付いていない。

イ　「書くこと」において、文構造についての知識が身に付いていない。

（３）今後の指導

ア　語と語のつながりに注意させるなど、文構造や語法の理解を図り、正しく書くための指導を継続して行うことが必要である。

・実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動と言語材料について理解したり繰り返し練習したりする活動をバランスよく行う。

・「書くこと」においては、「１日１文３単語」運動を引き続き推進し、短時間でも日々英語に触れる時間を設けるよう工夫する。

・基本表現等について、一文を取り上げ単独で指導するだけでなく、対話文や文章の中で、前後の文脈や話の流れから理解を図りたい。その際、時制やbe動詞、一般動詞等に着目させ、文法に従って正しく書く活動を取り入れたい。

イ　基本的な語彙や文構造の確実な定着とともに、それらを実際に活用してコミュニケーションを図るための指導の充実が必要である。

・小学校での外国語活動における子どもの実態や学習内容等を把握し、音声による活動を十分に行い、その後に書く活動へ移行するなど、指導の手立てを工夫する。

・音声から文字（発音から綴り）へつなげたり、文構造を視覚的にとらえさせたりするなど、スモールステップによる繰り返し指導を重視する。

・基本的な語彙や文構造の理解を図り、身近な場面に応じて話したり、書いたりする学習活動を工夫するなど、言語材料を実際に活用しながら定着を図る。

・日常の授業の中に、教師と生徒、生徒同士などによる既習事項を活用した英語によるインタラクションの場面を多く設定する。

※実際の指導例：(15

身近な言語の使用場面を設定し、思考・表現させる言語活動を取り入れる。

（例）[友達や家族]について　　写真（絵）

A：＿＿＿＿＿＿ is this?

B：(He/She) is my ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

A：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿?

B：Yes,(he/she)is. He(She) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

A：＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿ she like(play)?

B：She(He) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

中２との共通問題

※「書く」学習活動と「聞く」「読む」「話す」学習活動との関連を図り、指導の充実を図ること

①前後の文脈から、時制、be動詞、一般動詞、疑問詞、つなぎ言葉などに留意し、場面や状況に沿った適切な対話文をペアで考え、英文を書く。

②発音、強勢、表現方法等に気を付けてペアで対話練習をし、発表する。

③聞いた内容をもとに、英語で問答する。